徳島文理大学通信

徳島文理大学
総務部広報室
徳島市山城町
〒770-8514
☎088-622-9611

第5代目学長に 桐野 豊氏が就任

二期六年にわたり、本学の教育・研究の振興に多大の貢献をされた勝沼信彦学長に代わり今年三月まで東京大学理事兼副学長の桐野豊教授が第五代学長として、平成十八年四月一日新たに就任されました。

勝沼前学長は酵素学の権威であり平成十二年第四代学長就任以来、本学の教育機構の改革・新学部の開設等に尽力されました。引き続き本学健康科学研究所長を務められます。

桐野豊新学長は愛媛県西条市出身で、東京大学薬学部長を経て同大学理事兼副学長を務められました。専門は神経生物物理学。

桐野新学長には豊かな経歴を生かし、学園創立百十年の伝統の上に立って大学の活性につながる新風をもたらすことに期待が高まっています。

イノベーションを担うことのできる人材の育成

学長　桐野　豊

四月一日付けで学長に就任いたしました桐野　豊です。私事に亘りまして恐縮ですが、私は四国愛媛県周桑郡周布村（現西条市）で生まれ、高校卒業時まで過ごしました。四十年余の後に、再び四国の地に戻って来ることができましたことを大変うれしく思っております。

さて、前世紀末に、「二十一世紀は知の世紀である」とよく言われましたが、二十一世紀も六年目に入りました現在、この言葉は正に至言であったと思います。それは、このまま放置すれば地球と人類の存続をも危うくしかねない重大な課題（例えば、地球環境破壊、エネルギー・資源の枯渇、安全・安心な社会の建設）に我々は直面していますが、このような問題の解決は、大量の知識を創造し、それを賢明に活用することによる他はない、ということが益々明らかとなってきたからであります。グローバルサスティナビリティ（地球存続問題）とか、LOHAS（Lifestyle of Health and Sustainability）といった言葉が毎日のように新聞やマスメディアにも登場することからも、このような認識が広がっていると考えられます。

このような時代背景のもと、知の創造（広い意味での研究活動）と知の継承（広い意味での教育）の拠点である大学の使命はこれまで以上に重く、また、大学に対する社会の期待も益々高くなっていると感じております。特に総人口が減少に転じ始めた我が国では、これまで以上に個々人の能力を引き出すための教育が重要であります。徳島文理大学では、「自立協同」という建学の精神のもとに、個人個人がこの難しい時代を自立して生き抜く知の力を教授し、かつ、他者を思いやるこころを養って、協同してよりよい社会を築くことに貢献できる人材を育てて参る所存です。

政府は、科学技術立国政策のもと、平成十八年度から開始される第三期科学技術基本計画において、向こう五年間で二十五兆円の科学技術振興資金を投入することを表明しています。その中でも、単に科学技術の革新（イノベーション）を進めると言うよりは、イノベーションを担うことのできる人材の育成に重点を置くことを明らかにしており、「モノからヒトへ」という標語を掲げております。これは、教育こそが現在最も重要な課題であるという認識の高まりを表すものです。

科学技術の一層の発展が、我が国の強みである製造業の先端・先進性を維持するために必須であります。しかしながら、今や製造業は、国内総生産（GDP）の二十%を占めるのみであり、我が国の主要産業は第三次産業（サービス業）であります。サービス産業の質を向上させることが、現代日本の最も大きな課題の一つであります。そのためには、現代社会を支える科学技術を理解した上で、文系（社会科学）にも通じた、文理融合の人材を必要としております。

徳島文理大学は、その名前の示すとおり、文系（文学部、音楽学部、総合政策学部）と理系（薬学部、香川薬学部、人間生活学部、工学部）の学部を併せ持ち、さらに短期大学部を擁する、総合大学であります。学部の壁を越えた研究教育活動の展開により、文理融合の人材養成を目指します。皆様のご要望をどうか学長室へご遠慮なくお寄せいただけますよう、お願い申しあげます。

桐野豊（きりのゆたか）
東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了後同大学薬学部助手、米国カーネギーメロン大学放射線研究所博士研究員、九州大学薬学部教授などを経て東京大学薬学部教授に就任、同大学副学長兼理事を務めた。

短期大学部生活科学科生活科学専攻 介護福祉士コースを開設

本県では、高齢化社会が他県と比べ、かなり速いスピードで高齢化が進んでいる。他方、核家族化の進行や女性の社会進出などにより、家庭での介護力が弱体化していることから、高齢者や障害者に対する介護が大きな社会的課題となっている。

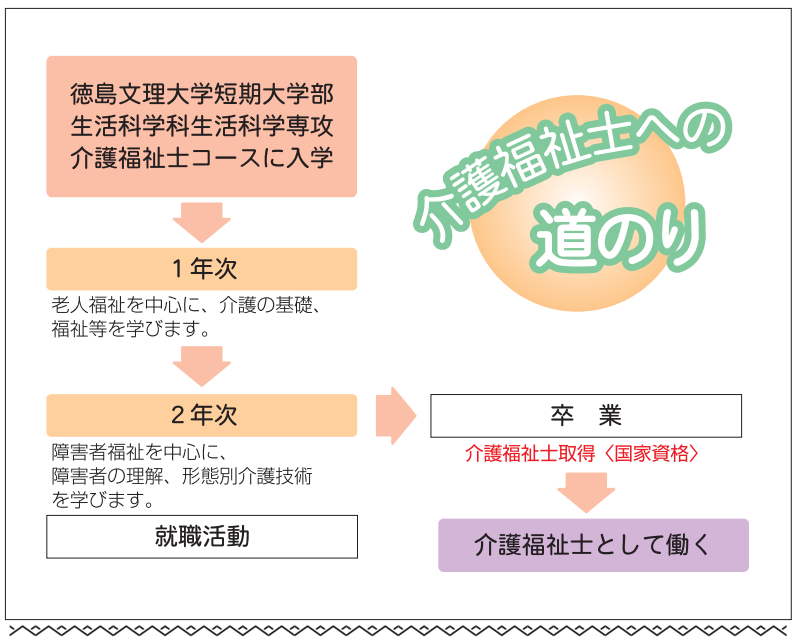
本学では、学生や社会のニーズに応えるため、生活科学科生活科学専攻の中に「介護福祉士コース」を設け、介護の現場で即戦力として貢献できる高度な専門的知識や技術を身に付けた「介護福祉士」の養成に取り組むこととした。

「介護福祉士コース」の教育方針は、介護福祉士として必要な知識や技術・態度に関する教育を行うとともに、生命の尊さや人権擁護の大切さを身に付け、介護に必要な判断・指導の能力を養い、あわせて調和のとれた人間形成に努め、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

「介護福祉士コース」では、介護の知識や技術はもちろんのこと、障害や病気のある方々を一人の生活者として理解し、生活者の願いや思いを汲み取り、どのような介護を必要としているか判断し実践できる介護福祉士を育てる。また、卒業後の進路としては、特別養護老人ホーム、老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問介護ステーション、老人・障害者などの各福祉施設等がある。

さらに、本学人間福祉学科へ三年次編入し、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得する道も開かれている。

介護福祉士としての社会的責任と専門職としての仕事に誇りを持ち、即戦力として社会に貢献できる人材を養成することにより、必ずや社会や地域のニーズに応えることができるものと考えている。



〈産学連携〉百十四銀行と本学が包括協定を締結

平成十七年十一月二十二日、本学学園長室において百十四銀行と産学連携の推進などを内容とする包括協定締結の調印式が行われた。

相互の連携強化を図り、地域の発展に貢献することを目的に企業側のニーズと大学のニーズのマッチングを図り、人材の育成や、大学発のベンチャー企業の支援・育成などに取り組む予定である。

調印式では、百十四銀行の竹崎頭取と村崎正人理事長が協定書に署名し、協定が成立した。

まず、村崎理事長が「包括協定は私たち学園にとっては本当に嬉しいことであり、こんなにありがたいことはないと思っています。大学というところは様々な特許やノウハウを持っていますが、なかなか外へ出られません。百十四銀行様を媒体にして、薬学部・工学部を中心とした企業の後援会的なものを作り、特許等の企業への橋渡しができることを期待しています。また学生にとっては、実践教育の場として産業界がより身近なものとなり、極めて意義があります。」と挨拶され、続いて竹崎頭取は「銀行の顧客ニーズと徳島文理大学の技術ニーズの橋渡し役として多種多様な要望にこたえていきたい。」と連携の抱負を語られた。

統合データベースに基づく 業務再編について

●ＩＴ推進委員会●

ＩＴ推進委員会では、業務再編に向けて統合データベース（以下ＤＢ）の構築を進めています。統合ＤＢ化は、学生情報を一元管理することにより、学生へのサービスの向上、事務運営の効率化を目指すものです。

十八年度前期には事務情報共有システムが稼動し、業務情報交換や協議をシステム上で行うことが可能となります。また、同年後期には学生情報検索システム等複数のシステムが稼動し、権限を与えられた教職員間で学生情報を共有化することが可能になります。その結果、やや属人的であった学生サービスが、組織的な力でさらに充実したものになります。

ACANTHUS

「二十一世紀の科学と技術のビジョンを考える場合、『巨人』の肩に乗ってみるといいですよ」というのがノーベル物理学賞受賞者・江崎玲於奈さんのモットーだ。

▼ある講演会で江崎さんが配布した一枚の紙には一人の人物が、巨人の肩の上に立ち、額に手をかざして遠方を見ている様子の漫画が描かれていた。そばに「もし私が他の人より遠くを見ようと思ったら、私は巨人の肩の上に立つだろう」という意味の英文も。ニュートンの言葉だと言われている。

▼講演会の後、江崎さんにこの言葉の真意を尋ねると、『巨人』とは、過去の科学者が積み重ねてきた研究成果や実績を指すと説明してくれた。つまり将来に向けて、いい研究結果を残そうと思えば、過去をよく知っておかなければならないというわけだ。

▼これと同じような使い方として「歴史は巨人である。未来を正しく見通そうとするのなら、過去の歴史を正確に把握しておかなければならない。その場合、歴史たる巨人の肩に乗って見渡せば、遠い未来までもがよく見える」というのがある。どちらも真理と言っていいのではないだろうか。

▼私たちは、先達が築き上げてきた悠久の歴史を大事に考え、そこから多くの教訓を学びとるべきだろう。そうした謙虚な姿勢がとれるようであれば、現在いきづまりをみせているアジア諸国との外交・信頼関係も問題なく構築されていくのでは、と思えてならない。

▼最後に新入生の皆さんにひとこと。入学おめでとう。ローマの詩人オビディウスは「学問は人格に移る」と言いました。これからの大学生活を通じ、大いに学び、多くの友人を作り、そして人格をより高めていってほしいと思います。

「メディアセンター」「新薬学部棟」着工

◆◆◆キャンパスIT化と学生サポート機能を集約◆◆◆

本学は平成十七年十月十九日、キャンパスのIT化を推進し、学生サポートの充実を図るための「メディアセンター」と薬学部六年制移行を踏まえた更なる薬学教育と研究の充実を図るために「新薬学部棟」の起工式を行った。

起工式には、本学関係者ら約九十人が出席。村崎理事長が鍬入れし、工事の安全を祈願した。完成は十九年二月を予定している。

「メディアセンター」は、鉄骨鉄筋コンクリート造り十一階建て、延べ床面積は約一万平方メートル。一階は学生の利便性の向上をめざしたカフェラウンジ、ショッピングモールで、二階は学生の修学から学園生活・就職等に関する全てのサービスをワンストップで実現するセンター機能を置く。三、四階にはマルチメディアなど高度情報化に対応できる情報教育の充実と本年度開設の人間生活学部メディアデザイン学科の講義室や情報教育や研究の拠点となり、講義をそのままデジタル録画しネット中継できる施設やパソコンで動画を編集する機器類を備えた教室を置く。五階は語学センター、六階は教育支援センターとする。また、最上階はレンタルオフィススペースを設け、産学共同研究やベンチャー支援などを積極的に行う。

「新薬学部棟」は、鉄骨鉄筋コンクリート造り十一階建て、延べ床面積は約七千三百平方メートル。六年制薬学教育をにらみ、更なる教育研究施設の充実を図るための施設。現在ある薬学部棟と平行して利用する。一階から五階までは講義室等の教育スペース、六階から十一階までは機器分析センター等の研究施設を計画している。

飛躍的発展をめざして

理事長　村崎　正人

本年三月、勝沼信彦学長が任期満了となり、四月より、前東京大学理事副学長の桐野豊先生が学長に就任されることになりました。

勝沼前学長は、平成十二年一月就任以来、六年二ヶ月余、学長を務められました。先生は、勝沼酵素の発見を始め、先端的な研究によって国際的に著名な生化学者で、学長在任中も招待講演等で各地におもむき、本学を世界にアピールしてくださいました。また教育者としても、多くの研究者を育てられ、そうした研究者、教育者としての高邁なご見識、豊富なご経験から、本学の教育内容の刷新充実に卓越した指導力を発揮されました。今後も、健康科学研究所長としてご指導を頂くことになっていますが、これまでの本学へのご貢献を讃えますとともに、長年のご労苦に対し、心から感謝申しあげます。

桐野新学長は、東京大学大学院薬学系研究科博士課程を修了された後、アメリカのカーネギーメロン大学に留学され、帰国後、九州大学、東京大学の教授を歴任、東京大学では薬学部長を経て、本年三月まで理事副学長として敏腕を振るわれました。ご専門は神経生物物理学で、研究者としては勿論、教育者としても、優秀な若手研究者の育成に努められる等、すばらしい業績を残されています。

今後学長として、穏やかな中にも厳しさを秘められたお人柄、先見性に富む大局観、豊かな国際感覚、幅広い人脈等を生かされ、本学の改革、発展にご貢献頂けるものと確信しています。

本年四月より、薬剤師養成の制度改革に伴い、徳島香川両薬学部で六年制の薬学科、更に、香川薬学部では四年制の薬科学科が発足します。薬学科は薬剤師の養成、薬科学科は研究者、薬学関連企業での職業人の養成を目的とするものです。いずれも今後予想される医療の進歩に対応するものとして、こうした教育に積極的に取り組むことが、大学の果たすべき社会的使命であると考えています。

更に、大学院では、心理学専攻、人間生活学部では、メディアデザイン学科を開設しました。

心理学専攻は、これまで行ってきた臨床心理士教育を、より本格的なものとするため、また、メディアデザイン学科は、これからますます進展すると考えられるIT化社会に必要な人材養成を目的として開設しました。

こうした改革に対応するため、現在、徳島校にメディアセンターと薬学研究センターを平成十九年四月から使用できるよう、建設しています。メディアセンターには各種のIT関連機器を集中的に設置するとともに、学生サービスセンターを設けます。

これらが完成しますと、新しい世紀に役立つ人材養成のための大学として一層充実したものになるものと考えています。

学園は、今年創立百十一周年になります。今後、学園が更に飛躍発展するよう、教職員、学生の皆さんの精進努力を期待しています。

表彰に輝く

庄野　英機　先生
（瑞宝双光章）
危険業務従事者功労

疋田　信正　先生
（瑞宝小綬章）
多年にわたる教育功労に対して

古津　英雄　先生
（瑞宝単光章）
危険業務従事者功労

渡邉　英雄　先生
（瑞宝双光章）
危険業務従事者功労

その他の表彰

浅川　義範　先生
（トウクマン国立大学名誉賞）
多年にわたる植物化学の国際的業績、多大の貢献によりアルゼンチン共和国トウクマン国立大学より同大学の最も権威ある名誉賞を受賞。

多田　哲生　先生
（IEEE〈アイ・トリプル・イー〉功労賞）
「多年にわたる学会活動に対する貢献」
IEEE（アメリカ本部にある世界最大の電気・電子関係の技術者組織）

小林　洋志　先生
（映像情報メディア学会感謝状）
「多年にわたる学会活動に対する貢献」

近藤　衛　先生
（応用物理学　功労会員賞）
「多年にわたる学会活動に対する貢献」

櫻井　純　先生
（平成十八年日本細菌学会賞　浅川賞）
「ウエルシュ菌主要毒素の構造と機能および活性発現機構に関する研究」において、我が国におけるこの領域の発展に先駆的かつ主導的に貢献したことに対して。

白井　悟　先生
（香川県教育文化功労賞）
「多年にわたる教育文化活動に対する貢献」

杣　源一郎　先生
（徳島ニュービジネス支援賞　二〇〇五大賞）
バイオ技術による安全・安心な食品感染防除飼料の開発。

田中　吉資　先生
（社会教育功労者表彰）
元香川県社会教育委員の会会長として、社会教育計画等社会教育の振興に尽力し、顕著な功績を挙げた。

藤代　瞳　先生
（日本薬学会・中国四国支部　奨励賞）
「カルシウム／カルモデュリン依存性プロテインキナーゼⅡによるシナプス機能調節の生化学的研究」に対して。

工学部　日本EVチャレンジ2位

平成十七年八月、徳島文理大学工学部は樋口研究室と森本先生でチームを結成し、徳島工業短期大学で行われた四国EVラリーに電動二輪車部門で参加した。

公道に設けられたコースを、指定された場所で証拠写真を撮影しながら走行して出発点に戻れば、定められたポイントが得られるロングディスタンス競技では、ボルトの緩みでバッテリ接続部が発熱して故障したため、二日間で走行予定の八レグ中、七レグしか完走できず二八〇ポイントで二位となった。

運動場にパイロンを並べて設けられたコースをいかに早く回るかという未舗装路走行競技では、一回目は旋回時に転倒してしまったが、空気圧を下げて挑戦した二回目の試技では、二位に七秒差の五十四・六秒で優勝することができた。

十月上旬に行われた兵庫EVチャレンジでは、国が設置した無料の「電気エコステーション」やホテル、公園の一角にある充電装置で充電しながら広範囲の地域を回る長距離競技にも参加し、学生たちに貴重な体験をさせることができた。

チャレンジメッセ表彰

―杣研究室―

第九回とくしまニュービジネス支援賞大賞を四国の大学としては初めて頂くことができました。これも理事長・学長先生はじめ皆様のご指導・ご支援の賜物と存じます。心から感謝し、お礼を申しあげます。

この賞は徳島からニュービジネスを発信する事が目的です。受賞内容は「バイオ技術を用いた安心・安全な食品・感染防除飼料の開発」で、二〇〇〇年に徳島県が設置した産学官連携組織「自然免疫賦活技術研究会」を中心に健康・長寿を目的として十七機関が参加して進めたものです。

ところで、大学は教育・研究・社会貢献が責務とされ少子高齢化のなかで、生き残りをかけた改革が求められています。産学官連携は社会貢献の取り組みとして重要な位置を占めますが、成果に繋げることは簡単ではありません。そのような中で今回の受賞は、本学が地域社会貢献の担い手であることを示すものであると考えております。

これからも微力ながら大学の発展に貢献できるように頑張って参ります。宜しくご支援くださいます様お願い申しあげます。

エフゲニ・モギレフスキー　ピアノリサイタル

村崎学園創立百十周年記念エフゲニ・モギレフスキー客員教授のピアノリサイタルが、一月二十九日、むらさきホールで催された。教授はウクライナに生まれ、世界の三大コンクールの一つ、エリザベート王妃国際コンクールで第一位という輝かしい経歴の持ち主である。モスクワ音楽院で、ネイガウス、ギレリス、リヒテル等の巨匠のもとで研鑽を積み、十八歳の時にはデビューリサイタルで世界各国を廻った。またクリュイタンス、ミュンシュ、ハイティングといった世界最高の指揮者が率いるオーケストラに招かれ、絶賛を浴びた。

日本には一九九五年、東京国際コンクールの審査員として来日。二〇〇三年、徳島文理大学定期演奏会にはチャイコフスキーのピアノコンチェルトとピアノリサイタルを、そしてこの度の創立百十周年記念定期演奏会では、ラフマニノフピアノコンチェルト、またリサイタルでは、スクリャービン、ショパン、ラヴェル、プロコフィエフの作品を、力強く幅広い音量、色彩豊かな音色、様々なテクニックを駆使した演奏で、満場の聴衆を感動させ、魅了した。現在、ブリュッセル王立音楽院教授で徳島文理大学客員教授である。

定期演奏会並びにその他の催物予定

平成十七年度徳島文理大学定期演奏会が、十一月二十六日香川校村崎サイメモリアルホール、同二十七日徳島校むらさきホールで開催された。

今回の第四十八回定期演奏会は、東京都交響楽団首席指揮者であり、カラヤン氏最後の愛弟子として世界で活躍する小泉和裕氏を指揮者として迎えて行われた。ワーグナーの楽劇「ニュールンベルグのマイスタージンガー」と、ヴェルディーの歌劇「アイーダ」が文理大学管弦楽団と合唱団によって高らかに演奏された。

休憩後の後半は本学客員教授のエフゲニ・モギレフスキー氏による独奏でラフマニノフの「ピアノ協奏曲第二番」が演奏された。たっぷりとロシア音楽の中で育まれたモギレフスキー氏と、気鋭の小泉和裕氏とのぶつかり合いは、緊張感があり音楽の醍醐味を充分堪能することができた。

なお、平成十八年度にむらさきホールで行われる主な催物は以下の通りである。

○四月
第三十一回中・四国新人演奏会

○五月
シェナンドー大学演奏会

○六月
二〇〇六年国民文化祭プレ東京交響楽団演奏会（第九演奏会）
ウィーン弦楽ゾリスデン演奏会

○七月
ウィーン国立音大教授陣によるインターナショナル夏期講習会及び演奏会

○十月
徳島文理大学ウインドオーケストラ定期演奏会

○十一月
エマニュエル・パユ　フルートリサイタル
徳島文理大学第四十九回定期演奏会

○二月
ウィーン国立音大教授陣によるインターナショナル冬期講習会

○三月
徳島文理大学卒業演奏会
文理OBオーケストラ定期演奏会

「ホームカミング」開催

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部同窓会アカンサス会による学園創立百十周年記念「ホームカミング」を、平成十七年十月八日（土）徳島文理大学徳島校、十五日（土）香川校で開催した。

「ホームカミング」は同窓会活動の一環として十年毎に全学部すべての同窓会員が一堂に会し、会員相互の交流の場として開催している。当日は、十時から受付を開始し、午前中は学内見学や子どもの遊びコーナー等で楽しく過ごした。徳島校では専門職大学院総合政策研究科　武村正義先生による〝この国はどこへいくか〟と題した講演会。香川校では文学部文化財学科石野博信先生による〝古代瀬戸内海の交流〟と題した講演会。さらに音楽学部学生とOBの人による楽劇「ニュールンベルグのマイスタージンガー」前奏曲の演奏会が行われた。式典後、食事をしながら恩師と語らい、クラス会では友人や恩師との旧交を深めた。また、学生による郷土の踊り（エイサー、ヨサコイ、阿波踊り）の披露や豪華景品の当たるくじ引き抽選会を行い、多くの同窓生とその家族および教職員全員が楽しいひとときを過ごし、次回での再会を誓って盛会のうちに終了した。

徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部同窓会
アカンサス会

国際交流

平成十七年十二月八日から十二月二十一日までの十四日間、香港大学語言学系の学生十五名が来学し、日本語・日本文化の研修を行いました。平成十五年に引き続き二度目の来学です。研修生たちの感想を紹介します。

香川は最高です！

香港大学の研修生

二〇〇五年十二月八日に、私たち香港大学の十五名の学生はフィールドワークのために初めて徳島文理大学香川校へ来ました。毎日授業を受けたり、いろいろなところへ見学に行ったりして、たいへん勉強になりました。日本語のレベルが少し上がったと思います。俳句や、相撲や、茶道などの日本文化にも興味を持つようになりました。

ところで、日本へ来てから、日本と香港の習慣は違う点がたくさんあるのを発見しました。それでも、皆さんに大変親切にしていただいて、すぐ日本の生活に慣れました。先生方には勿論、学生さんにも、寮の皆さんにも本当にお世話になりました。特に日本語を教える実習生の六人がいつもそばについて、何でも丁寧に教えてくれて助かりました。何度御礼を言っても足りないと思います。皆感謝の気持ちでいっぱいです。

二週間はあっという間でした。香川校に来て、毎日楽しく過ごしていましたが、皆さんと別れる時は悲しいと思いました。今年の日本の冬は例年より寒いといわれていますが、みなさんのお陰で私たちの心は温かかったです。香川の美しさ、人々の優しさ、ずっと私たちの心に残っています。香川は最高です！今回のフィールドワークはよい思い出として一生忘れません。皆さんも、私たちのことを忘れないで下さいね！

皆さんもぜひ香港へ遊びに来てください。またお会いできるのを楽しみにしています。それでは、お互いに元気で頑張りましょう！

研究室便り

櫻井研究室

みなさん、こんにちは。薬学部櫻井研究室（微生物学教室）を紹介します。当研究室は、櫻井教授が本学に赴任され、今年で創立二十八年目を迎え、研究室出身者は三百七十名を超えました。研究室のメンバーは、櫻井教授、永浜助教授、小林助手、小田助手の四人と大学院生八名、さらに、三、四年生三十五名も加わり大所帯です。研究室は、午後から卒論研究の三、四年生も加わり研究をしますので、大混雑になります。しかし、研究室は、今も昔も何に対しても大変活発で、よく学び、よく遊べをモットーに、研究はもとより、月に一度はレクリエーションや飲み会を開いて親睦にも力を入れています。

研究としてはウエルシュ菌感染症の予防と治療を目標に、「本菌が産生する病原因子（タンパク毒素）の構造と機能の解析」、そして「病原因子の作用機序に関する分子生物学的、細胞生物学的解析」のテーマで懸命に頑張っています。研究レベルは昔と比べると格段に進歩し、国際雑誌に研究成果が多数掲載されるようになりました。この成果が認められ、日本細菌学会総会にて櫻井教授が受賞されました。対象となりました業績は「ウエルシュ菌主要毒素の構造と機能及び活性発現機構に関する研究」です。この賞は、北里柴三郎先生が創立された日本における細菌学の最高峰の賞で、櫻井教授が常に最先端の方法を取り入れられ、先駆的かつ主導的な研究をされてきたことが高く評価された結果であります。この受賞は、薬学部はもとより、大学での誇りでもあり、研究室一同大変喜んでいます。今後も櫻井教授を中心に活発な研究を続け細菌学発展のために頑張ります。

（微生物学教室院生より）

佐々木研究室

学生は三年前期に卒業研究執筆に向けてゼミを選択し、本格的に準備に入っていきます。まず先行研究を専門書や学術雑誌等より押さえることから始まります。研究はその人独自の視点や見解が必須です。従来その作家、作品、ジャンル、時代にいかなる考察が積み重ねられて来たのかを認識し、その上に立って問題点を見出すことにより論ずる者のオリジナリティーが獲得できることになります。加えてそのオリジナリティーが独断的なものであっては、他から認めてもらえません。論述の客観性が求められます。優れた先行研究はこのような客観性にも満ちており、これらを読みこなし要約することは、一見遠回りに思えても自分の独自性と客観性を獲得する早道なのです。

続いて独自の見解を展開する手順について検討します。直接証明する資料等が有る場合はそれで充分なのですが、その資料を発見するのは簡単ではありません。普段の弛まぬ問題意識の保持と情熱が、その資料との邂逅を導いてくれる場合があります。このような体験は研究上最も幸福な瞬間です。直接証明出来ない場合は、傍証といって間接的な状況証拠を多く提示することになります。このようにして独自の結論を導いてゆくのです。

私は近世期の散文を専攻しています。学生は井原西鶴、上田秋成といった定番の作品に限らず、「信長記」「太閤記」等のゲームでもお馴染みの作品、坂本龍馬や新撰組など幕末の人気もの、はたまた近世期の女性ファッションなど様々なテーマを楽しみながら解剖、分析しています。論文完成後の打ち上げの席で見る学生の充実した笑顔は私の宝物です。

大輪の花を咲かせよう

アカンサス会会長　藤田義彦

明治二十八年（一八九五年）村崎サイ先生が学園を創立されて百十年の伝統と信頼を持ち、「自立協同」を建学精神として我が母校、徳島文理大学は八学部・二十六学科、専門職大学院および大学院五研究科をもつ中四国・九州唯一の総合学園に発展しました。また、平成十七年度には、大学院に新たに香川薬学研究科創薬科学専攻博士課程、工学研究科ナノ物質工学専攻博士課程、さらに家政学研究科家政学専攻を人間生活学研究科人間生活学専攻へと変更し、新たに人間生活学研究科心理学専攻博士前期課程の設置等々のめざましい発展は、本学園の卒業生であることを誇りに思う次第であります。

この村崎学園創立百十周年という慶賀にあたり、平成十七年十月八日（土）は徳島校、翌週の十五日（土）は香川校におきまして、同窓会（アカンサス会）主催でホームカミングを開催いたしましたところ、総勢三千余名の先生と会員の皆様にご出席をいただき、心より厚くお礼申しあげます。

ご家族連れで参加されお子様に母校を紹介している様子、何十年ぶりかで再会され学生時代のことを懐んでおられる様子、退職されている先生方との語らい等々、会員相互の連帯と友情を温めることができ、さらなる母校愛が生まれました。本当に、このホームカミングを開催して良かった！と感激を覚えました。

これも理事長・村崎正人先生、学長・勝沼信彦先生をはじめ学園の先生方の多大なるご理解、ご支援をいただきました賜であり、感謝の念に耐えません。厚くお礼を申しあげます。ありがとうございました。

これから社会、大学は激動の時代が予想されますが、恩師の先生方には温かく、時には厳しく、いつまでも我々、卒業生を見守っていただけることを、切にお願い申しあげます。徳島文理大学と同窓生の照らし合いが、お互いのたゆまぬ前進と発展に結びつき、大輪の花を咲かせることができるものと確信して、ごあいさつとさせていただきます。

パヴィア大学との学術交流協定締結

平成十八年一月十一日、徳島文理大学（村崎正人理事長）とイタリアのパヴィア大学（アンジョリーノ・ステラ学長）は日本政府、イタリア政府両国の文化・科学協定に則り、国際レベルで相互に協力すること、ならびに教育、科学、技術面での協力を促進するために、協定に合意し署名を行った。

パヴィアはイタリア北部の中心都市ミラノから南へ三十五キロに位置する古い歴史を誇る街である。現在人口七万五千人のパヴィア市は、南部にティチーノ川が貫流し、市の南東部でイタリア最大のポー川と合流している。パヴィア市はこの水運の便利さから発展してその歴史を刻んできた。

パヴィア大学は、この街の中心を南北に貫くストラーダ・ヌオーヴァ通りに面し、その他の歴史的建造物と共にこの街に歴史と文化の香り高い趣をそえている。

もともと神学、天文学、法律学校として九世紀初頭から学問の場として在ったものを一三六一年に新しく総合大学としてスタートさせたものであるが、イタリアでも最も古い大学の一つである。

現在、経済学部、薬学部、法学部、工学部、人文学部、医学部、科学（数学、物理、自然科学）学部、政治学部、音楽学部がある。

両大学は双方にメリットのあるすべての分野において、持てる設備、人材、経験を有効に利用して協力することに合意をした。

協定の主な内容は以下のとおり。

1　教員、研究員の交流
2　大学院生の交流
3　学生の交流
4　学術図書、資料の交換

大学の国際化が求められている中で、外国の特にヨーロッパの古い伝統を持った大学との交流は、単に専門の技術を深め、国際的視野を広げるのみではなく、深い伝統の中で培われた人間としての徳育教育にも資することが考えられる。この観点でパヴィア大学との学生交流を中心とした学術交流は意義のあるものとなるであろう。

ヨーゼフ・ステファン国際大学院との一般学術交流協定について

去る十一月十一日、ヨーゼフ・ステファン研究所のヴィトー・ターク学長が徳島キャンパスを訪れ、徳島文理大学と同大学院との間で一般学術交流協定が締結された。ヴィトー・ターク学長は勝沼前学長の友人であることから学術交流の話が進み今回の締結に発展した。ヴィトー・ターク学長は本校の名誉教授でもある。

スロベニア共和国は人口二百万、面積二万平方キロメートルとほぼ四国と同じくらいの小さな国である。首都リュブリアナ市は人口二十八万人、ヨーロッパの首都の中では小さい方であるが、政治、行政、経済、教育、文化の中心である。二〇〇五年現在で五万人の学生が学んでいる。

伝統を誇るヨーゼフ・ステファン研究所にCOEとして二〇〇四年に創設されたヨーゼフ・ステファン国際大学院には教授四十名、準教授、助教授七十五名、その他研究者を加え総勢五百名が活躍している。

主な研究分野は物理学、化学、生化学、分子および構造生物学、物質科学、ナノサイエンス、コンピューターシステム、インフォメーション・コミュニケーションテクノロジー、核および核反応テクノロジー、エネルギー効率、環境科学などである。

ヨーロッパ連合、アメリカ合衆国、日本、その他の主要提携大学と密接な連携をしている。

ヨーゼフ・ステファン国際大学院との学術提携により教職員の学術・科学研究の一層の促進と学生相互交流を通じて協力関係を構築するものである。

平成十七年度就職状況

―早めに積極的な就職活動を展開しよう―

就職部

平成十七年度の業種別就職状況は、平成十七年十二月二十日現在で後段の円グラフに示すとおりである。

平成十七年度は景気回復の動きや団塊の世代の退職者増に向けて求人意欲は増加傾向にあり、本学への求人件数も昨年度より増加している。しかし、就職者側から見れば各自の就職条件をあてはめて考えた場合、職種や形態、地域等の面で必ずしも十分ではなく、また企業の厳選採用傾向もあり、依然、厳しい状況に変わりはないといえる。

就職部では平成十七年度も学生の就職内定に向け様々な支援を行ってきた。特に就職試験対策集中講座を八月末実施とし、早めの対策を奨励した。早くから自己分析を重ね自分を知るとともに、しっかりと相手（企業）の情報を収集し、企業側のニーズも把握して就職活動を進めることが大切である。

また相談スペースも改善し相談し易い雰囲気作りに努めており、相談の場所を教室にまで拡大するなどの対応を行ったり、就職部でのインターネット端末も三台増設して、情報検索し易い環境も一層充実した。

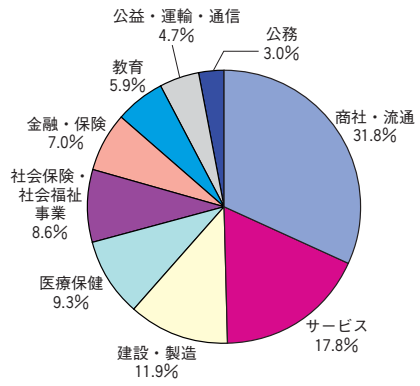
さらに学部一・二年生を対象として、早くからキャリアについての関心を持ってもらうために、初のガイダンスを「若年者就業支援セミナー」として実施した。このセミナーには飯泉嘉門徳島県知事も開会行事にかけつけ、学生に対し激励のメッセージを送った。

このほか企業就職体験発表会の業種別開催や人数限定での新聞読みこなしセミナーの実施など少人数参加の機会も増やしており、学生の積極的・主体的な参加を期待している。

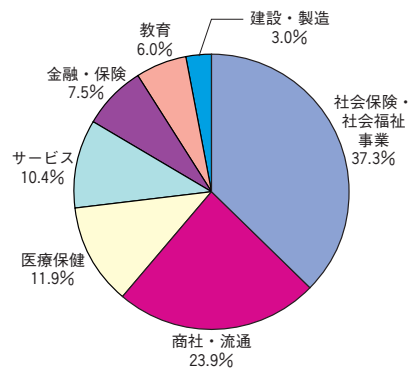
昨今の厳しい就職戦線の中でも就職部で相談するなど積極的に行動した学生は満足できる結果を得ているようである。早めに積極的な就職活動を展開することで希望者全員が内定を獲得できると確信している。

若年者就職支援セミナー

大学



短期大学部



学生プレゼンテーションコンテスト開催

最優秀賞に室屋　恵さん・船奥千智さん

平成十七年十月二十二日、香川校一一三教室において第二回学生プレゼンテーションコンテスト「わが徳島文理大学キャンパスライフ」が開催された。

本コンテストは、今やビジネス界で必須のスキルとなったプレゼンテーション能力の向上を目的に企画されたもので、文学部コミュニケーション学科から九組ほか工学部、人間生活学部をあわせ計十五組によって競われた。参加者は、在籍学科やサークルの紹介、研究活動などについて自慢のキャンパスライフを披露した。

審査は、「主題と構成」「プレゼンス」「メディア」「オリジナリティ」の四項目により行われ、次の学生が表彰された。

◇**最優秀賞**

団体名「オープンキャンパス実行委員会」室屋恵、船奥千智（人間生活学部人間生活学科三年）「私たちのオープンキャンパス～2005・夏～」

◇**優秀賞**

川渕大輔（文学部コミュニケーション学科二年）「コミュニケーション学科での大学生活」

◇**審査員特別賞**

「LISOSプロダクトデザイン」木村健二、粟田祐加、大西由起、中川葉月、岡田睦（人間生活学部生活情報学科三年）「徳島文理大学ブランドの商品を作ろう！」

無償の愛　インドでの体験

人間生活学科　高橋　あすか

マザーテレサの施設で

きっかけは好奇心。そして少しの勇気。二〇〇五年八月二十四日から九月三日の十一日間インドの「マザーテレサの施設」へのボランティアに行きました。初めての海外。右も左もわからないまま向かったインドは、物が無く、地べたに座りボロボロの服を着る少年、車の窓を何度も叩き手を伸ばしている老人など、たくさんの路上生活をする人々を目の当たりにし、私の心は震えました。

マザーテレサの施設の一つ〝ダイアダン〟という身体障害をもった子供の家で活動しました。ここには親に捨てられた子や、何らかの理由でマザーテレサに助けられた子供たちが共に生活しています。はじめ、子供たちが必死に何かを訴えているのに応えてあげられない自分が悔しく、無力に感じました。未知の場所での不安感もあったのかもしれません。

ある時、私がひとりで洗濯物を干していると、一人の男の子がやって来て、干すのを手伝ってくれました。その優しさに触れ、今まであった不安感や壁のようなものが無くなり、言葉でなく心で通じ合えたような気がしました。その時から、子供たち一人一人に、愛情をこめて接するようになりました。すると、今まで全然笑ってくれなかった子が私に、笑顔でこっちに来てと言うかのように、手招きするのです。こんなに嬉しかったことはありませんでした。

ボランティア最終日、子供たちが寂しそうな顔で私を見つめてきました。きっと分かっているのです。彼らにとって私は数日いたお姉さんに過ぎません。しかし、私にとってこの出会い・そして笑顔は、生きることの素晴らしさを見つめなおすきっかけをくれました。

インドでは辛い現実を目の当たりにしましたが、とても楽しかったです。このことを、たくさんの人々に伝えていきたいと思います。

実習だより

児童養護施設実習に行って

保育科　北岡雄次

「児童養護施設」。それが私の行くことになった実習施設です。様々な福祉施設がある中で、児童養護施設になった時は、頑張ろうという気持ちと不安とがあり、不安な気持ちの方が多かった。実習生という立場だが、子どもたちに与える影響は大きく、私のほんの一言がその子どもにとって辛い過去や心の傷を思い出させてしまったりしないか、実習生を、そして人を嫌いになってしまわないか不安で一杯でした。

「どうしよう。どうしよう。」と、そわそわして浮き足立ってしまいそうな気分で実習が始まるまで不安でした。

そして実習の日、初めて子どもと関わった時の私を見る子どもの目を今でも鮮明に覚えています。綺麗な目の中には、「実習生の先生が来た。遊んでくれる。」と思う反面、少し不信感を漂わせた目でした。口数も少なく、「私に心を開いてくれるだろうか。」と思い不安でした。積極的に話しかけていこう。この実習は観察的にいくより子どもの気持ちを私に開いてもらえるようにしようと思っていたので、普段話をしない子に、より積極的に関わっていきました。幼児、中学生、高校生は比較的話をしてくれたり、自分のことを聞いてくれたりしましたが、小学校低学年の子どもはあまり最初は話をしたり遊んだりということがありませんでした。先生方にも、「どんどん自分から絡んでいって、子どもに話かけてごらん。」と言われたので、背中を向けられることもありましたが、毎回諦めず話しかけました。すると、少し前まで私を見ていただけの子が、「先生はおもしろいなあ。」と言って話しかけてくれるようになりました。後から知ったことですが、その子は男の人が苦手だったらしく、「男の人になつくなんてすごいね。」と先生はおっしゃってくれました。

「子どもが心を開いてくれた。」私を受け入れてくれたことに、本当の喜びを感じました。子どもの幸せのため、この子のためと思ってこちらから一方的にするだけで本当に子どもにとって良いのかと考えていた時、子どもから私に、「これしてほしい。」と言われたことが私にとって一番幸せでした。

時には気持ちが荒れたりしていたずらや悪いことをすることもあります。その時に「お願いだからもめないでほしい。他の事で気を紛らそう。」とするのではなく、正面から向き合って叱ることの大切さを学びました。一人、昔の私とよく似ていて、意地をはったまま捨て台詞を言う子もいましたが、お互い気のすむまで話をしました。やはり、その子になぜ叱るのかということを本人に理解させないと意味がないし、慣れ合いだけは絶対にしたくなかったので本気で叱りました。叱るのもただ叱るのではなく、子どもを理解した上で、「この子にはどう言えば上手く伝わるだろう。」と日々考えました。そうした結果、子どもも私を理解してくれて、信頼関係ができていくのだと感じました。生活していく中で、「信頼」というものがどれほど大事であるかということを改めて感じました。叱ること一つとっても、「この子は解ってくれる。本人は何もわかってないわけじゃない。」と思うからこそ、子どもを信頼して叱るのだと思いました。今回の実習で初めて叱ることをしましたが、とことんくるところまできたら、本気で叱らないといけないなと感じました。

十日間という短い期間の中でどれだけ子どもとの距離を縮めることができたかは分かりませんが、自分の課題を達成することができたのと子どもが私を施設の一員として認めてくれたことに喜びを感じました。

実習生に一番大切なのは積極的に関わることと、何事も挑戦する姿勢が大事だと思いました。これからも素直で謙虚な気持ちをもって学んでいきたいと思います。実習期間中、時には辛くて泣きたくなることもありましたが、子どもの本当に嬉しそうな顔を見るだけで「やってよかった。明日もまた頑張ろう。」と思うことができました。子どもが私を支えてくれ、私も子どもを支える。この実習はこんな様子でした。精一杯やったことが子どもにも伝わり、「先生、ありがとう。また来てな。」と言われた時、本当に幸せでした。

最後になりましたが、実習をさせていただいた施設、御指導くださった施設の先生方、実習の手配をしてくださった大学の先生方に対して感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思います。

◆博士誕生◆

―香川薬学研究科に博士第1号―

大学院香川薬学研究科創薬科学専攻博士後期課程の川幡正俊さんに平成十八年三月十七日付けで、課程博士香薬第一号の学位が授与された。

博士論文名は、「ビスグアニジン化合物の分子結晶化学」で審査には、山口健太郎（主査）、東屋功、伊藤康一の三教授があたった。

また、大学院工学研究科博士後期課程システム制御工学専攻の笠松博史さんに課程博士学位が授与された。博士論文名は「非線形最小二乗問題の一解法―最大事後推定法によるアプローチ―」であった。

大学院薬学研究科博士後期課程薬学専攻でも課程博士の学位が平成十八年三月十五日付けで次の三名に授与された。学位授与者と博士論文名は次のとおり。

坂本泉さん。「wittig型光延試薬の反応性評価と新試薬を用いた炭素―炭素及び炭素―窒素結合形成反応の新たな展開」。

原田研一さん。「パラジウム触媒反応を活用した7―0―メチルデヒドロピングイセノール及びメリラクトンAの合成研究」。

古澤舞さん。「生薬および苔類より得られるセスキテルペノイドの微生物変換―機能性物質の創製―」。

実習を終えて

人間生活学部児童学科　上松美穂

私は、十月二日から十月十五日の二週間、出身幼稚園である吉野川市立川島幼稚園で実習をさせていただきました。

初日が運動会という大きな行事から実習が始まりました。子どもたちとうまくかかわっていくことができるか不安な面もありました。しかし、積極的に子どもたちに話しかけたり、遊んだりしているうちに打ち解け、仲良くなることができました。

幼稚園では、子どもたちと一緒に遊び、その中で私はたくさんのことを学びました。子どもたちは、遊びの中で友達との協調性や思いやり、創造性、ルールなどを学んでいきます。小さな子どもたちの考える力は素晴らしく毎日が驚きと発見の連続でした。しかし、子どもたちとかかわっていくうちに教師の援助の難しさを何度も感じました。

部分実習では、実際に指導案を作り保育をしました。子どもたちの前に立ち指導するのは難しく、戸惑うことばかりでした。「音楽フルーツバスケット」という私が考えたゲームと「楽器遊び」をしました。子どもたちはリズム遊びや楽器遊びが大好きだったのでとても楽しんでくれました。自分の思いが伝わった時は、嬉しさが込み上げてきました。教師としての自覚が強まったような気がしました。

二週間という短い期間でしたが、楽しく充実した実習になりました。実習で学んだことをもとに、子どもたち一人ひとりの思いや願いを活かすことができる教師になっていきたいと思います。さらに、子どもたちが持つ可能性を引き出し、伸ばし、育てることのできる教師になるためにこれからの大学生活をより充実させ、勉強に励みたいです。

おとぎのくに
保育科

平成十七年十一月十六・十七日の二日間にわたり保育科主催の「おとぎのくに」が本学アカンサスホールにて開催された。

「おとぎのくに」は、保育科一年生の授業「児童文化」の一環として行われるもので、日ごろ実習などでお世話になっている保育所の子供たちを招いて、さまざまなパフォーマンスを披露した。

四月に入学したばかりの一年生が、自分たちで内容を考え、小道具を作り、振り付けをし、遅くまで残りながら全員で作り上げた。

参加した子供たちは、二日間であわせて七百名を越えた。ハンドベル、影絵やミュージカル、ブラックシアターなどの舞台や、歌遊び、楽器遊びなど積極的に歌い踊る子供たちの歓声がホール内にこだましていた。

「おとぎのくに」で見事なパフォーマンスを披露した学生は将来、幼稚園教諭、保育士をめざしており、この経験は大きな財産となったことであろう。

「石からの挑戦状」展開催

文学部文化財学科　濱田　宣

文化財学科の学生十二名が企画した展覧会「石からの挑戦状」が、平成十七年九月四日～二十五日、香川県牟礼町石の民俗資料館で開催された。

同展は、資料館からの依頼を受けて実施したものであるが、①文化財に関する調査研究成果を展覧会の場で公表する。②調査研究過程で地域社会との連携・交流を図る。③学生が主体的に取り組むことにより社会的責任感や学生相互の連帯感の涵養を図る。④博物館における学芸員の仕事を実体験する。

以上のことが実現できる点、本学にとってこの上なくよい機会となった。

展示は、「石からの告白―鉱物」「地蔵物語―信仰」「石の架け橋―遊び」の三つのテーマで約百点の資料を紹介し、私たちの生活に「石の文化」が、いかに多く関わっているかを再認識していただいた。

大変好評だったので、目下第二弾、「はきもの展」（仮称）の開催（平成十九年二月）に向けて準備を進めている。

TOEIC対策について

徳島校

英語の実用面での運用能力を調べるテストとして、TOEIC（＝国際コミュニケーションのための英語テスト）は、世界中で実施されている。特に日本人の受験者は多く、TOEICのスコアを評価の材料として利用する日本の企業の数は年々増えており、大学生の受験者数も年々増え続けているのが現状である。

徳島文理大学ではTOEICチャレンジ講座と題し、学部を超えて受講できる授業を開催し、TOEICでより高い得点を取得したいと願う学生の実力アップをサポートしている。団体受験も本学において行い、試験直前には直前対策講座を数回にわたって実施中である。この

テストは単に英文法と英文読解の能力をはかる内容ではなく、科学技術・政治経済・医学・日常生活から最新のトピックにいたるさまざまな内容・語彙が試される。またリスニングの量も非常に多いため、特殊な練習の繰り返しが必要になるが、毎年出題を分析している本学英語教員が全力で授業に取り組んでいる。

香川校

インターネットの普及、また海外と提携する国内企業の増加にともなって、英語の重要性は学部・学科を問わずますます高まっている。そんな中、日本では二千社を超える企業で、英語力判断の基準として採用されているのがTOEICである。

本学では平成十二年度よりこのTOEIC団体受験制度を学内に導入、本試験と同じ内容のものを学内で受験できるようになった。またTOEICに関連した科目や対策講座も充実させ、さらに平成十五年度からはオンラインの学習システムによって、受験者が自分のペースに合わせてTOEICの問題練習をすることも可能である。

昨年度、徳島・香川の両キャンパスで実施された団体受験では八十二名が受験、平均点が四百一点・最高点が八百三十点というかつてないハイスコアとなった。今後も学生の皆さんが着実に英語力をつけていけるようにバックアップしていくので、TOEIC受験への積極的な参加を期待している。

英語スピーチコンテスト

本年で第十二回を迎える英語スピーチコンテストは、平成十八年六月一日（木）香川キャンパス・村崎サイメモリアルホールにて開催される。今年のメインテーマは「私のモットー」。発表時間は一人五分程度。審査は本学の英語教員五名により、内容・構成・発表力など様々な角度から厳正に行われる。

最優秀賞の受賞者には、今夏実施されるカナダ英語研修（二十四日間）に招待され、姉妹校ランガラ大学での語学研修とカナダ人家庭でのホームステイの機会が与えられる。

◇申込み期間
四月三日（月）
～五月十七日（水）

◇問合せ・申込み
徳島キャンパス　国際部
香川キャンパス　学生部

日頃の成果を発揮する良いチャンス、参加してみませんか。

AED講習会

心臓が止まった人に電気ショックを与えて突然死を防ぐ。このような一刻を争う処置を医師でなくても簡単に行えるAED（自動体外式除細動器）が注目され普及しつつある。

本学でも保健センター・体育館に設置され救命措置に万全を備えている。このAEDは、自動音声の指示どおりに進めていけば誰でも簡単に操作できるので多くの人にマスターしていただきたい。

保健センターでは平成十七年十一月に教職員および体育クラブ代表者約五十名を対象に篠原校医他保健センター職員による講習会を行った。AEDの必要性を理解し、心肺蘇生を取り入れたAEDの操作を、三グループに分かれて熱心に取り組んだ。

薬学部生からは特に希望があり熱のこもった研修ができた。一方オープンキャンパスでは人間生活学科で高校生を対象に体験コーナーを設け学生と共にPRした。人間生活学科・短大保育科は授業の中で実施している。AED手当だけでなく人が倒れていたら積極的に応急手当ができるような心構えを持ちたいものである。

海外研修旅行

◆カナダ英語研修

姉妹校のランガラ大学（カナダ）の協力を得て、この研修を毎年夏期と春期に行っている。期間は二十四日間。午前中は授業、午後は様々な課外活動を行う。研修中はカナダ人家庭でホームステイを経験し、英語力だけでなく国際理解の精神を育む。

◆ヨーロッパ芸術研修

毎年十二月末に十四日間の日程で実施している。ウィーン、ローマ、パリなど文化の香り高いヨーロッパ主要六都市を訪問し、本場の音楽、絵画、建築などを鑑賞する。

◆香港大学語学研修

二月中旬、十四日間にわたって香港大学において英語・中国語・中国文化の研修を行っている。

◆檀國大学語学研修

夏期休暇を利用し、檀國大学において一カ月間の韓国語・韓国文化の研修を行っている。

異文化圏での生活を体験し直接その国の文化に触れることは、国際的視野が広がる貴重な体験となる。積極的にご参加ください。

クラブ・サークル大会結果

◎弓道部
・第五十一回中四国学生弓道選手権大会
優勝　増田　博子

◎剣道部
・中四国学生剣道新人戦
女子団体　第三位

◎卓球部
・四国学生選手権大会
女子ダブルス　第三位

◎日本拳法部
・四国大会　女子の部
優勝　渡辺　祥子

◎水上スキー部
・チャンピオンシリーズ
〈個人スラローム〉
優勝　平岡　美文
・全日本学生大会
男子　第三位
女子　第二位
〈団体スラローム〉
男子　第三位
女子　優勝

◎水上競技同好会
・日本学生選手権大会
水球競技中四国予選優勝

功労賞

音楽功労賞

堀尾智恵美（四年）
音楽学部　ピアノコース
第四十六回全四国音楽コンクール四国大会第一位

高橋　冴（二年）
音楽科　管弦打楽器コース
第四十七回全四国音楽コンクール四国大会第三位

体育功労賞

◎準硬式野球部
前川　勝秀（人間生活学部）
矢野　裕（人間生活学部）
立花　龍一（総合政策学部）
玉井　伸明（人間生活学部）
松本　佳之（人間生活学部）

◎バスケットボール部
石本　美穂（人間生活学部）

◎日本拳法部
平松美智留（人間生活学部）

◎剣道部（香川校）
谷口　友哉（文学部）

◎バレーボール部（女子）
児島　理恵（人間生活学部）
出口裕美子（人間生活学部）
大家由記子（人間生活学部）

村崎凡人賞

澤谷　昌樹（文学部コミュニケーション学科）

クラブ・サークル紹介

徳島キャンパス

◇人形浄瑠璃部

私たち人形浄瑠璃部は、徳島が誇る伝統芸能、阿波人形浄瑠璃の伝統を守り、その文化を継承していくために創設された部である。徳島と聞くとまず思い浮かべるのは阿波踊りだと思う。しかし、人形浄瑠璃もまた、徳島の大切な文化の一つである。

主な活動内容として、文化の森やアスティとくしまでの公演、老人ホームへの慰問、また毎年行われる阿波人形浄瑠璃フェスティバルへの出演など、幅広く活動している。

人形は基本的に、頭（かしら）、左手、足の三つのポジションに分かれて使う。これらのどれか一つが欠けてしまうと、演技が成り立たない。三位一体という言葉があるように、これらの三者が一心同体となって初めて、人形に命が吹き込まれるのである。

部員は地元出身のみならず、県外からの人も居る。一見難しそうに見えるが、演目を最後まで通しきったときの気持ちよさは格別なものである。ほんの少しでも興味をもたれた方は、是非一度部室までお越しください。部員一同、心よりお待ちしております。

香川キャンパス

◇弓道部

弓道部は一射一射を大事にし、日々練習に励んでいる。経験者から初心者まで実力は様々だが、限られた少ない時間の中で練習に励めば、一年の内に上手に引けるようになる。個々に違った目標を持ちながらも、「上手くなりたい！」という気持ちは皆同じで仲間として、時にはライバルとして互いに競い合い励まし合いながら練習している。

昨年度は大会であまり良い成績を残すことはできなかったが、大会でも上手な人の射形を見て勉強し、自分がまだ出来ていないところを見る事によって学んでいる。このように次につなげるためチーム内でお互いに切磋琢磨している。また、入部者が男女共に多く、これからまだまだ伸びる可能性のある人も多いので、今年は昨年よりも良い成績が残せるよう、部員一同闘志を燃やしている。弓道をやっていることで大学生活も充実している。

大学祭

平成17年10月21日～10月23日

山城祭（徳島校）

学園創立百十周年第四十一回山城祭は、各サークルの皆さんや近隣の皆さんのご協力のおかげで無事終えることができました。

二日目の夜から三日目の朝にかけて突風が吹き、模擬店を出すことができず、そのことだけが心残りです。それ以外は特に大きなアクシデントもなく無事に全日程を終えることができました。今年はライブに力を入れ、三日間ともに、野外ステージ及び体育館にて行いました。こちらも大変盛り上がり、山城祭に来られた皆さんに喜んでいただけたと思います。

最後になりますが、来年度も山城祭の発展・成長を期して努力してまいりますので、ご協力、ご支援をお願いいたします。

なお今回学園創立百十周年記念企画として特別表彰を行った結果は次のとおりです。

【展示の部】
金　賞　「児童学科　子ども広場」
銀　賞　「華道部」
銅　賞　「住居学科」
〃　「茶道部」
〃　「KOKORO」

【表現の部】
金　賞　「徳島文理大学連」
銀　賞　「エイサー団体ニライカナイ」
銅　賞　「HA」
〃　「和太鼓部　億」
〃　「TOSAMONO よさこい衆」

（実行委員長　久光啓一）

表現の部金賞の徳島文理大学連

杏樹祭（香川校）

今年も無事、第二十回杏樹祭を終えることができました。

今年度は昨年度よりも大きくしよう！盛り上げよう！と模索を繰り返した一年でもあり、保護者の方から景品として自動車を提供していただき、わずかながらも結果が出ていたように思います。車を景品に出す、というのは私たちにとってはかなり革新的で、本番でも杏樹祭メンバー、学生、一般の方ともに盛大に盛り上がることが出来ました。

吉本お笑い芸人イベントのステージも野外に移し、より多くのお客様に来てもらえるように工夫し、こちらも成功だったと思います。ただ、地域の方々の出演する機会がなかったのは残念ですが、是非復活させたいと思います。

毎年ある杏樹祭ですが、年ごとに、少しずつでもいいのでより多くの人に参加し楽しんでいただけるよう、私たち杏樹祭実行委員会のメンバー全員がさらに努力をしよう！と決意した杏樹祭でもありました。

最後に、ご協力いただいた皆様、まことにありがとうございました。

〈創立百十周年記念企画〉
「ものづくり作品合同展」
金　賞　谷川英夫　工作物
銀　賞　川井照美　工作物
銅　賞　佐藤吉春　工作物
〃　森本滋郎　写　真
優秀賞　伊藤和子　七宝焼き
〃　竹下修子　レース編み
〃　白井　悟　工作物
佳　作　三好和子　染め物
〃　平岡幸子　人　形
〃　近藤敏郎　写　真
〃　杉原茂雄　写　真
〃　多田萌柳　書

（実行委員長　岩永明大）

オープンキャンパス開催について

平成十八年度オープンキャンパスを七月十五日（土）〔徳島キャンパス〕、十六日（日）〔香川キャンパス〕、八月八日（火）〔徳島キャンパス〕、九日（水）〔香川キャンパス〕、八月二十六日（土）〔両キャンパス同時開催〕、十月七日（土）〔徳島キャンパス〕、八日（日）〔香川キャンパス〕の七回、七日間の日程で開催する。毎年、高校生や保護者など延べ千人を超える参加者が本学を訪れ模擬授業に参加するなど充実した一日を送っている。

徳島・香川の両キャンパスでは本学学生がデザインしたTシャツを学生スタッフが身につけ、キャンパスツアーや県人会・クラブサークル紹介、さらに大学概況や入試・就職状況、奨学金相談コーナー、学部学科の教員や在学生と触れ合いながら、授業、実験等の体験ができるコーナーなど一日では回りきれないほどの充実した内容となっている。

また昨年度から、在学生による「オープンキャンパス実行委員会」が発足し、後輩になるであろう参加者のために企画運営を行い、受験生の立場に立った大学の魅力を紹介している。

当日は無料送迎バスを運行するので乗車希望者は、ホームページから申し込みができる。

（URL）http://www.bunri-u.ac.jp/
徳島校オープンキャンパス実行委員ＨＰ
（URL）http://wmt.bunri-u.ac.jp/open-c/

先輩からのアドバイス

会話が武器になる

文学部日本文学科
下司真弘
株式会社四国銀行

九月に四国銀行より内定通知をいただきました。

それまでに受験した会社の採用試験には、共通することが一つありました。

それは、どの会社も面接試験を重要視しているということです。勿論筆記試験も大事ですが、コミュニケーション能力を大事とする昨今、会社訪問時や面接試験での印象で合否が決まるといっても過言ではありません。

面接試験で、自分をアピールするのは当たり前で、会社訪問の時に、会社の内容を聞くだけではなく、その時から自分をアピールすることを忘れてはならないと思います。

そのためには、日頃から人との対話に気を配ってください。日常で培う会話能力こそが、面接試験、つまり就職試験にとって大きな武器になるのではないかと思います。

その頃は、何も分からず、決して効率よく勉強していたとは言えません。三年になり、大学で行われる先輩方の体験発表や教育委員会の説明会へ参加しました。勉強の方法、試験の様子、しくみ、様々な話を聴くことができます。この機会を通じて、自分のやる気に拍車がかかりました。そして、実際に合格された先輩方の話を聴くことは、何よりも私の励みになりました。筆記、面接、実技試験どれにおいても、情報収集は肝心だと感じています。

教員採用試験は、厳しいとよく耳にします。しかし、本当になりたいと思うのならば、自分の限界を決め付けずに、自分を信じて必死に行動してみてください。私の合格は、努力と大学生活の充実があったからだと思っています。皆さんの笑顔につながるように、心から祈っています。

努力＝自信

人間生活学部人間発達学科
紙崎明日香
名古屋市公立学校

四月から名古屋市で養護教諭として働くことになりました。

私は、二年の頃から採用試験の勉強を始めました。

働く自分を想像して

薬学部医療薬学科
森園温美
久留米大学病院

私が就職活動を行うにあたって、まず初めに考えたのは「薬剤師としてどのような仕事をしていきたいか。」ということでした。病院実習や薬局見学をしてみて、抗癌剤の調製なども含めた幅広い業務を行える病院で働きたいと思い、夏休みを利用して六つの病院に見学に行きました。そこで色々なお話を聞いて規模の大きい病院、小さい病院それぞれのよい面や悪い面を知ることができました。また、薬剤師さんたちの働く様子を見て、その雰囲気が自分にあっているかということを感じ取ることもできました。

卒論発表の準備や国試の勉強と並行して就職活動を行うのは、精神的にも体力的にもきついだろうと思いますが、自分の納得のいく結果に辿り着けるように、働いている自分の姿を想像しながら頑張ってください。

積極的に挑戦を！

短期大学部商科
電子経営コース
岡部世理奈
徳島プリンスホテル

私が内定をいただいたのは、八月上旬です。就職活動を始めた頃は私が希望する職種の求人案内もあまりありませんでした。焦りもあった矢先、就職部の先生からホテルの求人があるとのお話をいただきました。希望していた職種でもあり、迷わず面接試験に挑みました。その結果、翌日には早速内定のお電話を頂き驚きました。

面接試験では、アルバイトでの経験と自信を生かし、積極的に自分の考えを自分なりに答えることができました。後日そのことが好感度アップにつながったというようなことを聞き、そこが最大のポイントだったと思いました。

こうした経験から、大学での授業やアルバイトで多くのことを学び経験し、まわりのアドバイスを受け入れ、視野を広げていくことが大きな飛躍につながると思います。

皆さんもできるだけ多くの経験を積んで、自信をもって積極的に挑戦してください。きっと良い結果が得られるはずです。